

宇宙教育センター

2019年度の活動概要 & 2020年度の活動方針

2020年6月

JAXA宇宙教育センター長

佐々木 薫



宇宙教育シンポジウムWEB開催版資料

2019年4月より宇宙教育センター長を務めております、佐々木 薫（ささき かおり）です。本日は、お忙しい中、JAXA宇宙教育シンポジウムWEB開催版にご参加いただきありがとうございます。

WEB開催にあたって

- 宇宙教育活動の成果や課題の共有、意見やアイデアの交換を目的に開催してきた。
- 従来の年度末（2，3月）開催から年度初め（5月）への変更
 - ネットワーク構築
 - 新年度方針の共有と具体的な実施計画の展開
- 「新しい様式」という前例のない課題
 - 優先度の見直し、目的を達成するための「新しい」手段なのか、目的が変わるのか
- シンポジウム＝一緒に語らい、学び、繋がり続ける
- 生きる（生命）ための生活（経済）と生きる（生命）ための学び（自己実現）
- 宇宙の視点はきっと変わらない

宇宙教育シンポジウムWEB開催版資料



JAXA宇宙教育シンポジウムは、平素より宇宙教育活動を実践、研究されている、またはご関心をお持ちの教育関係者の皆様が一堂に会し、成果や課題を共有、意見交換を経て新しいアイデアや仲間づくりなど、今後の皆様の活動深化を目的に開催してまいりました。

従来より年度の総括を考えた2月開催でしたが、人事異動や新年度への連続性の点でデメリットもあり、年度はじめの5月開催に変更して準備をしておりました。これにより、明日からいつでも宇宙教育で連絡を取り合える全国の仲間とのネットワーク構築などメリットが期待される場所でした。

そんなさなかに世の中が、世界が新型コロナウイルス感染症という、生命と経済とそして学びの危機に見舞われ、私たちも働き方、生活、習慣など「新しい様式」への転換を迎えることとなりました。

「学びを止めるな」との思いは皆様共通認識としてこの状況に取りうるる対策に奔走されていたことと存じます。

宇宙教育は、宇宙「で」学ぶという考え方であり、宇宙活動の成果を身近な日常の視点に生かしながら学びを楽しく続けることが狙いです。

学びの手段や様式が変わっていくことはあっても、宇宙の視点で学び、考え、自分と社会のなりたい姿を描き、実現に向かう、このお手伝いをおこなうというJAXA宇宙教育センターの使命は変わらないと考えています。

2019年度の活動と成果

- 方針

1. ネットワーク型連携の拡充

- 宇宙航空教育に関連する多種多様な外部機関間の連携を促進し業務の効率化を図る。

2. 宇宙教育活動の拠点から周辺地域への波及支援

- 各拠点間の連携を図り、裾野の拡大を図る事業を推進する。

宇宙教育シンポジウムWEB開催版資料



2019年度のJAXA宇宙教育センターは、地域の皆さまの宇宙教育活動の自律性と継続性を重視し、業種や地域を超えたつながりの提供支援などを重視し、各種の事業を展開してまいりました。

またJAXA宇宙教育センターのもうひとつ重要な役割は、皆さまにご利用いただける教材や情報のコンテンツ開発、制作、運用であるとし、こちらの業務にも注力してまいりました。

年度計画と目標	実績
◎次世代を担う人材育成への貢献	—
多角的なものの見方・考え方や自律的、主体的、継続的な学習態度の醸成等、未来社会を切り拓く青少年の人材育成に幅広く貢献するため、政府関係機関移転基本方針（平成 28 年 3 月まち・ひと・しごと創生本部決定）なども踏まえつつ、宇宙航空研究開発を通じて得た成果や知見を広く教育の素材として活用し、学校教育の支援、社会教育活動の支援及び体験的な学習機会の提供を行う。	—
学校教育の支援に関しては、学校のカリキュラムを補完する授業支援プログラムや教材の改善・作成等を行い、教師とその養成を担う大学等との連携による授業支援や研修を実施する。	学校教育の支援について、教員研修は、学校現場における宇宙教育活動が少ない地方において、JAXA主催型教員研修を複数回開催し、宇宙教育の普及・浸透を図った。地球観測データを使っためり絵教材を開発し、理科、社会科などの複数の単元で活用できる教材として公開した。大学との共同研究の分析結果を受け、幼保との連携強化を図った結果、幼保教育においても宇宙教育を導入する効果があることを確認した。
社会教育活動の支援に関しては、宇宙教育指導者や地域との教育関係者等との連携により、家庭や地域が子供達の深い学びを育む環境を用意しやすいプログラムや教材の改善・作成を行う。また、地域が活動を継続するための宇宙教育指導者の育成等を行う。	社会教育活動の支援について、コズミックカレッジの他、地域に根付いた自立的な実践教育の普及を目指し、社会教育現場における教育素材の活用方法について講義するセミナーを実施し、宇宙教育指導者の育成等を行った。
体験的な学習機会に関しては、JAXA の施設・設備や宇宙飛行士をはじめとする専門的人材及び国際交流の機会を活用し、学習機会を提供するとともに、JAXA 保有の発信ツールや連携団体等の外部機関を活用し、学習に関する情報を提供する。	全国の高校生から募集して行うエアロスペーススクールは、JAXA事業所開催の他、大樹町、名古屋において地元企業・自治体等（【大樹町】北海道庁、大樹町役場／【名古屋】三菱重工業、愛知県、名古屋市、名古屋大学）との連携を行い、地域指導者が主体的に企画運営を行う連携体制を整えた。 また、アジア太平洋の中高生・教員向け水ロケット大会については日本がホスト国として13ヶ国から119名の参加者を集め、成功裏に終了したほか、大学・大学院生向けISEB（国際宇宙教育会議）等、他宇宙機関と連携した国際交流機会の提供を継続している。

宇宙教育シンポジウムWEB開催版資料



この表は、2019年度の当センターの計画と目標、主な実績を文書でまとめたものです。恒例の各種プログラムをほぼ同規模で実施してまいりましたが、過去まだ取り入れていなかった分野の宇宙活動の成果を活用した教材開発や、教材ツールそのものも、新しく導入するなど時代に合ったコンテンツづくりを意識しております。

(1) 情報発信ツールの充実による新たな層の開拓と自律した学びの支援

若者層や子育て世代の主婦層をターゲットに、WEBサイトのリニューアル、SNSとの効果的な連動により、アクセス数が2倍以上に増加。

臨時休校支援対策のため解説した「宇宙de春休み～いっしょにチャレンジ」サイトを開設、単なるコンテンツの紹介にとどまらず、職員の取り組みや生の声を紹介するとともに、子供達がチャレンジ内容を投稿する受け皿を用意したことにより、双方向の、より深い学びを支援するものとなった。合わせて子供たちのモチベーション向上を図った。



リニューアル後の宇宙教育センターウェブサイトTOPページ

(2) 多様な組織、団体との連携の促進と宇宙教育実践者へのJAXAの進める宇宙教育の理念と目標、課題の再確認と共有

JAXAとの協定に基づき主体的に教育活動を展開する地域拠点（以下、拠点）と協力して、拠点関係者及び日頃から当該地域で各種教育活動に取り組んでいる方々を対象とした地域フォーラムを開催し、様々な学習支援活動に関する情報共有と指導者のネットワークを拡げ、多様な組織、団体との連携の促進した。

●開催実績：令和元年 7月26日：宇宙教育地域フォーラムin桑名（三重県桑名市）



アクティブラーニング研修の一コマ

【ウェブサイトリニューアル告知・実施後2週間のアクセス数の実績】

※カッコ内は前年度同期間比

【宇宙教育センターウェブサイト】

2020年3月1日～18日

集客数：6792(↑116.84%)

平均滞在時間：2分32秒(↑119.58%)

【Twitter】

2020年3月1日～18日

ツイート数：25

ツイート閲覧数：948,696(↑2,077%)

新規フォロワー：261

※参考：例年最もツイート・訪問者数が多い1か月間

2019年8月1日～31日

ツイート数：30

ツイート閲覧数：890,898

新規フォロワー：168



こちらは、2019年度の活動の中で特にご紹介したい2点です。

(1) 情報発信活動としてWEBサイトのリニューアルを年度末近くに行いました。時を同じくして全国的な学校休業期間となり、「宇宙de春休み、一緒にチャレンジ!」という特設サイトを立ち上げ、STAY HOME中のこどもたちに、当センター既存の教材コンテンツの中から、季節や状況を踏まえて入手しやすい材料を使った実験、工作、観察のおススメを紹介、また「職員のおすすめ本」としてこの時期読んでほしい本のご紹介などを掲載しました。また子どもたちによるチャレンジも募集、掲載された教材でなくても何でもチャレンジして結果を送ってくださいというものです。春休み以降も継続、5月6日まで受け付けておりましたが60件以上の応募があったようです。

(2) は地域連携を地域主体で、をモットーに開催している地域フォーラムを7月に三重県の桑名市で開催いたしました。地元市、県のほか近隣の県からのご参加も多くいただき、活発な議論とフレンドリーな雰囲気の中、参加者のモチベーション向上にもつながっていただけて、大変すばらしいフォーラムになったと存じます。

2020年度の方針と主な計画

- 宇宙教育が教育関係者に広く認知され、実践しやすい有効な教育ツールとして支持されるような各種取り組みを行う。
- ・ ICTを活用した教育への対応。
- ・ 各層の興味を引く即時性のある情報発信。
- ・ 調査分析による中長期的効果の明示。

宇宙教育シンポジウムWEB開催版資料



今年度は、繰り返しになりますが、新型コロナウイルス感染症対策の大きな影響を受けた状況からのスタートとなりました。新しい習慣、マナー、エチケットといった個人レベルの変化から学校はもちろん、家族、地域、日本、国際社会に大きな変化が余儀なくされています。その中にあっても、宇宙教育が続けていくことは何か、形を変えて、または新しく取り組むべきことは何か、現時点では模索中の部分もありますが、宇宙教育の普遍的な価値をもっと広めていくための様々な工夫に取り組みたいと考えております。

スライドに記載した項目は其中でも特に需要と考えているものです。いずれにしてもこれらの取り組みには皆さまとの協働活動が不可欠です。アイディア、ニーズの共有、実践情報の共有など、いろいろな協働をぜひ行っていきたいと考えております。ぜひ、皆さまからの各種ご提案、お待ちしております。また、こちらからのご相談、ご協力のお願いも行わせていただくとありますがよろしくお願いいたします。

最後に、直接お会いできる状況になりましたら現場の様子から学んだり議論したりといった活動もを楽しみにしております。